

第22回 まちだ国際交流パーティー

日本でも新型コロナウイルスの感染が広がり始め、国際交流パーティーが開催できるのか危ぶむ声もありましたが、関係部門に相談し、万全の感染予防策を講じて実施することにしました。2月9日(日)当日は、心配されたキャンセルも少なく、フィリピン、ネパール、韓国、マレーシア、インド、ペルー、中国、スリランカ、日本の9カ国、総勢131名の来場があり今回も国際色豊かなパーティーとなりました。

高橋副市長、財団の鷲北理事長の挨拶、宗田事務局長による乾杯の後、テーブル毎に自己紹介を行い、美味しい料理を食べながらお喋りに花が咲いていました。

恒例のアトラクションは、三味線や鼓に合わせて“♪～アラエッサッサ～♪”の掛け声で始まる“銭太鼓”や“どじょう掬い”を安来節保存会 大江戸支部の皆さんに披露して頂きました。また、会場の皆さんも“どじょう掬い”の指導を受けて、一緒に輪になって踊りを楽しみました。

次は、熱血あふれるアフリカ太鼓が会場に鳴り響き、アハエデの皆さんと共に参加者もりズミカルなアフリカ民族舞踊に酔いしれ、会場全体が熱く盛り上がり最高潮に達しました。町田市は、ラグビーワールドカップ・ナミビアチームのキャンプ地やオリンピック、パラリンピックの南アフリカチームのホストタウンでもあり、多くの市民に交流パーティーを通じて、アフリカを身近に感じてもらえたと思います。

お客様より「新しい出会いがあり楽しかった」、「久しぶりに友達と会えた」、「来年も是非参加したい」など貴重なご意見を頂きました。

今後、若い世代の日本人や外国人の皆さんに「国際交流の場」として、パーティーに参加して頂けるよう努めたいと考えています。

国際交流部会 関根 信二



ぼろんていえ

Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで

子ども教室

芹が谷公園「ひだまり荘」
2月1日（土）

子ども教室では、2月1日に芹が谷公園「ひだまり荘」で、腹話術とバルーンアートのパフォーマンスを見せていただきました。ボランティアの引率で10時過ぎにセンターを出発し、12時に帰ってくるという計画でしたが、この日は子どもの来る時間も揃い、子ども10名と保護者3名（他に見学の家族1組）が皆一緒に

出発できました。腹話術は「節分」にちなんだ内容で、赤ちゃんが生まれて女の子に成長し留守番していたとき、鬼が来たけれど豆をまいて追い払うというお話がおもしろく、子どもたちも興味津々で見っていました。バルーンアートでは、お花やプーさんなど次々とできてくるものをいただいた後、刀のつくり方を教えてもらい皆で作って遊びました。

この日は、センターに残って学習する中学生もいるため、ボランティアは二手に別れての活動になりましたが、保護者の協力も得て安全に引率することができました。教室の中で文字に向かい座って学習する日頃の活動から離れ、保護者にも呼び掛けて一緒に何かに取り組む行事も時にはよい体験になると思います。

子ども教室 佐藤 弘子



腹話術に子どもたちは夢中!





KOKUSAI インタビュー

今月は、町田に住んでいる若者「グズマン一輝さん」16歳をご紹介します。お父さんお母さんはペルーの方ですが、一輝さんは日本で生まれました。現在、都立国際高校の2年生です。

Q こんにちは。よろしくお願いします。日本語は日本人と変わらないですね。ご家庭でも日本語ですか？

いいえ、母は日本語がほとんどできません。家ではスペイン語です。保育園や学校で自然と覚えました。でも、学校の勉強には足りなかったの、小学校の時は、みんなと別れて、日本語の勉強をしました。あと、高校受験の時、町田国際交流センターで勉強しました。

Q そうですか。もう、今は学校の授業も大丈夫ですよ。学校は楽しいですか？

すごく楽しいです。学校が大好きです。でも、いじめられていたこともあります。

Q どんなことで？ そんな時はどうしたんですか？ご両親には相談しましたか？

日本人は何人かでグループをつくるんです。どのグループにも入れなくてさみしいときがありました。仲間はすれかな。でも、すこしずつ、いじめている人に声をかけたり、努力をして仲良くなりました。もう、今は何でもありません。学校も友達も大好きです。両親には何も言っていません。

Q 大変でしたね。日本の嫌なところはありますか？

今もいいましたが、日本人同士で固まること、見た目などでレッテルをはってしまうこと。

Q ステレオタイプですね。個人個人で考えてほしいですね。では、日本の良いところは？

何事にもきっちりしている事です。清潔だし、時間も仕事も。日本はきれいですよね。ペルーはこんなにきれいじゃないし、時間にもルーズだし、いろいろなルールにもいいかげんなどころがあります。でも、人間は感情豊かで温かいですよ。そこは好きです。

Q 日本は好きですか？ずっと日本に住みますか？

日本、大好きです。ずっと、日本にいたい。社会人になっても。寿司が好きです。

Q 学校ではなにか部活をしていますか？

バドミントンをやっています。女子がすごく多くて、男子がすくないので1年で試合に出されてしまいました。散々でしたよ。遊びのバドミントンみたいなしか知らなかったの。

Q 好きなことはなんですか？時間のある時はなにをしていますか？

数学が大好きです。暇なときは「数学チャート」をしています。でも、一人は嫌いなので友達と一緒にみたいです。いつもだれかと一緒にみたいです。一人は嫌いです。

Q 嫌いなものがありますか？

オバケが嫌いです。ホラーも。怖いですよ。あと、本を読むことがあまり好きじゃありません。じっとしているのがいやです。

Q 日本社会に言いたいことがありますか？

学校でやる国際理解がおかしいです。つまらないし、押しつけだし、身につかないですよ。もっと、自然に理解しあえる仕掛けをしないとだめだと思います。

そうですね、同感です。何かアイデアがあったら教えてください。一緒に仕掛けましょう。ありがとうございました。

外国人のための 専門家相談会

町田国際交流センター
2月29日(土)

去る2月29日、「外国人のための専門家相談会」が開催されました。新型コロナウイルス対策として、相談に来た外国人にもマスク着用をお願いし、相談を受けて頂く弁護士、行政書士、社会保険労務士など専門家の皆さんも同様にマスクをして、緊張感が漂う雰囲気の中での相談会でした。この相談会は東京都内各地で持ち回り開催のリレー相談会の一環だったこともあり、こんな状況でも専門家のアドバイスを求めて、町田を始め、遠くは新宿、埼玉などからも合わせて

11組が来場しました。

私は約半年前から、国際交流センターでの相談対応や学校等への同行通訳など、相談部会の活動に参加してきましたが、この専門家相談会で通訳をつとめるのは初めてでした。私が担当した相談者は、まもなく帰国する予定の方でした。退職から帰国までの期間の健康保険の手配方法と、帰国後は日本と母国のどちらの年金制度を利用するのが有利か、という相談でした。複雑な手続きの説明と相談者の質問を正確に通訳するのは予想以上に難しいことでした。

この日は他にも様々な相談がありました。町田に在住する外国人は約7,000人とのことですが、外国人相談部会の活動を通じて、これらの皆さんの生活上のご苦勞の解決に少しでも貢献していければ大変うれしく思います。

外国人相談部会 山口 敏久

町田国際交流センターからのメッセージ

町田市には、7千人を超える外国籍の方が町田市民として日々生活をしています。

町田国際交流センターは町田市域に居住する外国籍市民と友好親善の絆を深め、地域の一員として日本人と外国人が互いに支え合えるような環境をつくり、多文化共生社会の実現を目指し、日々ボランティア会員と共に事業展開を行っています。

「来て、見て、知ってみよう」をスローガンに、7つのボランティア部会と共に4つの事業を行っています。

この4月には新型コロナウイルスの感染の広がりに伴い、政府により緊急事態宣言が発令され、東京都からも外出の自粛や自宅勤務などの強いメッセージが発信されました。このような中、町田国際交流センターも日頃のボランティア活動の休止、自粛をお願いしています。現在の厳しい状況の中ですが、支援を必要とされる外国籍市民の皆さまには、事務局で対応しておりますのでどうぞご安心ください。

一日も早く、新型コロナウイルスを克服し、日常の活動ができるよう願っております。

編集後記

5月、一雨ごとに山々の緑が色濃くなる季節。真夏のような暑い日もあれば、涼しい日もあると言った日々。新型コロナウイルス感染症拡大による各種の制限もまだ回復していない様子。新しい年度になっても、皆さまにも戸惑いが残る状態となっています。日本に住んでいる外国人の方々も、世界各国の状況に深い関心を寄せ、心を痛めていると思います。「ぼろんていえ」は、新年度から4ページになりました。レイアウトや記事の中身にも変化があらわれていると思いますが、これを機に広報部会一同、皆さまのご協力を得ながら、内容の充実に一層力を入れていくつもりです。